

[海外事情 3月6日号]

➤ **米スピリッツ、手荷物規則厳格化**

米ウルトラLCC(ULCC)スピリッツ航空が、4月5日から最低運賃の機内持込手荷物の許容容積を42000cm<sup>3</sup>から31500cm<sup>3</sup>に25%削減する。ライアン航空では44000cm<sup>3</sup>の手荷物に加えハンドバッグのような小型手荷物14000cm<sup>3</sup>の機内持込が可能だ。スピリッツでは、手荷物は有料で機内エンターテイメント、座席指定、リフレッシュメントは存在しない。スピリッツほど厳しい機内持込手荷物規則を導入している航空会社は世界広しといえども存在しない。2月からアメリカン航空が格安のベーシック・エコノミー運賃を導入し機内手荷物有料化に踏み切る。欧州では、LCCのWizzAirを除いて有料化した航空会社はまだ存在しない。(Travelandtourworld 2/4 goo.gl/i2obj7)

➤ **大統領令反対ウーバー等100社超**

アップル、フェイスブック、ウーバー、グーグル、ツイッター、マイクロソフト、リフト他多くのシリコンバレーの企業が、トランプ大統領令の「トラベルバン」に反対した共同リーガル・ビリーフ(準備書面)を第9巡回控訴裁判所にファイルした。彼らは、ワシントンの判事の大統領令差し止めを支持している。リーガル・ビリーフは、中東7カ国からの旅行者と移民の一時米入国禁止は差別的であると批判し、移民と経済成長は緊密に関連していると主張、この大統領令は世界からの有能な専門家の収集力を損なうとしている。ごく最近では、サンフランシスコ高裁が、司法省の大統領令復活(つまりワシントン判事の差し止め令の無効)の訴えを却下している。(Travelandtourworld 2/4 goo.gl/UbSCyg)

➤ **ローラ、\$10M 第2回資金調達**

旅行会社のエージェント(スーパーエージェント)をAIで装備したハイブリッドの旅行会社ローラが、第2回目の1000万ドルの資金調達に成功した。4週間前の1回目と合計すると2500万ドルの調達となる。このパーソナル・アシスタントアプリは、まだiOSと米国だけで利用可能。ローラの創業者であるポール・インブリッシュは、比較検索エンジンの米カヤック(現プライスライン子会社)の共同創業者の一人である。(TN 2/06 goo.gl/XVSf68)

- ホテルベッツ、米ツーリコ買収
- プライスライン、モモンド買収
- 民泊、米で四分の 1
- 米大統領令、訪米旅行者減少さす
- TUI、トラベロピア売却

以上のニュースは、トラベル・ジャーナル 3 月 6 日号をご覧ください。

➤ **アコー、米代替宿泊施設買収**

仏ホテルチェーンのアコーが、米国の中規模バケーションレンタルのトラベルキーを買収する。買収価格は不明。今年 6 月には買収手続きが完了する見込み。91 年創立のトラベルキーは、カリブと中米と米国を中心に 90 カ国で 7000 軒の豪華ビラの在庫を保有している。アコーは、16 年 4 月にワンファインステイを 1.48 億ユーロ(プラス買収後 7000 万ドル投資)で買収し、世界のハイエンドのバケーションレンタル市場におけるシェア拡大を目指している。この他にもアコーは、フランス・スペイン・モロッコの OTA であるスクエアブレイクの 49%と、米国・欧州・ラテンアメリカの観光と法人旅行用のレンタルのオアシスコレクションの 30%を取得している。(TN 2/6 goo.gl/0VtxP9)

➤ **企業の出張規定管理**

サーティファイの「2017 年出張旅費管理報告書」は、多くの企業で、出張規定遵守とそのエンフォースメントの間が断絶していることを明らかにしている。企業にとって出張規定遵守は繰り返される難問であるが、多くの企業では出張者が規定を遵守しているとの前提に立って手作業で出張レポート(清算)をチェックしているに過ぎない。サーティファイの顧客を除外した米企業 600 社以上を調査した結果、79%が出張規定を保有している。16 年調査では 85%であった。オープンブッキング(出張予算の総額管理だけで、個々の出張については出張者の自己管理に任せられるシステム)が、この調査の“規定保有”にカウントされているか否かについては不明である。また奇妙なことに、26%の企業が規定を設けていながら、カテゴリ毎の清算額の上限を決めていない。規定を有する企業の四分之三(79%)では、出張者の自主的な規定遵守に任せるか、手作業によるチェックが実施されている。サーティファイは、総合的な規定管理と規定遵守のモニタリングをするシステムの導入が必要だと言っている。そして、出張規定のエンフォースメントの自動化は、出張管理システムプロバイダーの大きな商機となると言っている。出張事前承認制も、規定遵守を強化させる一つの方法だと言っている。(TN 2/09 goo.gl/2Tr4TX)

➤ **エクスペ 16 年度決算**

エクスペディアの 16 年度決算が、収入 88 億ドル(増収 32%)EBITDA16 億ドル(増益 39%)、人泊数 2.46 億(21%増)となった。総売上は 724 億ドル(19%増)であった。中でも 12 月に上場したトリバゴは、大幅増収となった。収入の内訳は、OTA 事業 7.1 億ドル(+21%)、トリバゴ 8.4 億ドル(+56%)、エジエンシャ 4.6 億ドル(+16%)、ホームアウェイ 6.9 億ドル(15 年買収)、グループ間取引相殺-3 億ドルであった。(TN 2/10 goo.gl/5njGL0)

➤ **KLM がバイオメトリックス**

KLM が、人相認識システムをスキポール空港の 1 つのゲートに試験的に導入した。これを使えば、搭乗旅客の空港搭乗ゲートにおける旅券提示が必要なくなる。搭乗旅客は事前に Kiosk への登録が必要となる。全ての個人情報はその旅客の搭乗後に消去される。Kiosk 内の全ての情報は、登録後 10 時間で消去される。(TN 2/10 goo.gl/LatQN1)

➤ **ブッキングがファンド設立**

ブッキング・コムが、200 万ユーロの資金を持つサステイナブル・ツーリズムに特化した新興企業育成ファンド Booking.com Booster を設立した。3 月末までが申請期間で、このファンド登録に成功した申請者には 3 週間コースのワークショップ、レクチャー、コーチングのセッションが用意される。6 月にアムステルダムで 10 万ユーロと 50 万ユーロの懸賞金争奪競争が予定されている。勝者に対しては、さらに 6~9 ヶ月間の週間モニタリングが用意される。申請資格は、ローカル(目的地)の環境や文化遺産の保全や目的地の総合的成長に影響するビジネスモデルと、複数の目的地をカバーできる能力を有したスタートアップ。ブッキング・コムは、このファンドはプログラム終了後 5 年間のベンチャーの成長過程を見ることが主たる目的で、役員派遣や投資利益を得ることが目的ではないと語っている。この Booster プログラムは、世界のサステイナブル・ツーリズム計画に対する社員の参加を促す 3 年前の Booking.com Cares イニシアティブの立ち上げに続くものである。ブッキング・コムは、健全な目的地の発展に貢献することによって、次の世代がその目的地をこの先何年も楽しむことができるようにしたいと言っている。(TN 2/06 goo.gl/259cOU)

➤ **ティンクラボ、客室用携帯開発**

香港のティンクラボ(Tink Labs)が、宿泊客向けの「ハンディー(Handy)」と呼ばれる客室モバイル機器を開発した。ハンディーは、宿泊客が自分のスマートフォンを使わずに目的地やホテルの施設の情報を取得できるモバイル・コンシェルジュだ。無制限の国内電話使用に

加え、ラクソス(Luxos)経由で事前に格納されたガイドやホテルとその提携者のプロモーションを見ることができる。ホテルはハンディーを使って、PMS や宿泊客のプロフィールと連動させた特定宿泊客向けのコンテンツや付帯プロダクトを発信したり、トリップアドバイザーなどへのレビューの投稿を促したりすることができる。ティンクラボは、昨年 1.25 億ドルの資金を調達し、香港と英国のハイアット、マリオット、ホリデーイン、リッツ・カールトンなどのホテルに対してハンディーの納入に成功した後、来月米国への展開を計画している。(TN 2/10 goo.gl/YIb8q)

### ➤ アコーのデジタル戦略

仏ホテルチェーンのアコーが、2 年前に 2.25 億ユーロのデジタル転換計画を作成した。この計画に沿って、アコー・コムサイトで自社系列ホテルに並べて独立ホテルの販売を開始した。丁度 1 年前にはバケーションレンタルのワンファインステイを買収、昨年 2 月にはスクエアブレイクやオアシスコレクションに対する戦略投資を実施した。そして、同じく 1 年前には 25 歳～35 歳のスタートアップの経験を有する 13 人の社員を集めた「影の経営協議会」を組織、この若手メンバーに 18 ヶ月間の期間を与えて、顧客の身になって現状を破壊(改革)することを考えさせている。これは、企業文化と顧客やイノベーションに対する社員の考え方を変える試みだ。影の経営協議会は、リアルな経営協議会とも双方向で連携し、昨年 9 月にはジェネレーション Y の顧客のための JO&JOE ブランドの立ち上げに参画した。今では影の経営協議会のアイデアが全世界のアコーにも広げられて、スマートディジット(デジタルネイティブ)と呼ばれる入社 5 年以内の若手社員と、それ以上の社歴を有するスマートリーダーと呼ばれる社員間の連携を強化して、企業の自己改革に取り組ませている。(TN 2/13 goo.gl/2vvQYk)

### ➤ ボット、あと数十年必要

旅行関連会社は、ロボットが顧客のニーズに対応し、コスト減少と競争力維持や向上に貢献すると考えている。しかし、マッケンジーな新たな調査は、AI とボットが人間同様に感性溢れるサービスをするようになるには数十年かかるだろうと指摘している。そして 70 年までは、ボットが人間同様に主要な旅行サービス機能をこなすことはできないと予想している。顧客が満足できるサービスを提供するために特に重要となる抽象的な思考力では、はるかに人間の方が優れていると言うのだ。すでに顧客サービスでは AI のベースラインを構成するアルゴリズムの改善によるチャットのインタフェースやボットが登場しているが、感情知能(emotional intelligence)はもっと複雑なのだ。(TN 2/14 goo.gl/o4t0zD)

➤ **ルフトハンザ、API で航空券販売**

ルフトハンザ(LH)の Open API が、航空券発券のための API 接続を可能にした。この API 接続を許可された第三者販売者にはコミッションが支払われる。

第三者販売者には、OTA を含む旅行業界以外の第三者チャネル全てが含まれる。

この API 接続は、まず航空券販売を可能した後、2017 年以内には付帯サービス運賃販売を可能にする。LH は、2015 年 6 月に GDS 経由予約に 16 ユーロの DCC を課した後、自身の流通革命にひた走っている。DCC をフォローする航空会社は未だどこにも存在せず、航空業界の中では孤立無援の状況である。しかしホームマーケットのドイツでの強固な販売力に支えられて、DCC 導入による経済的ダメージもそんなに大きくなっていない。API 接続する旅行会社が増えていけば、LH の流通革命は徐々に地歩を固めるだろう。(TN 2/15 goo.gl/WUGzfc)

➤ **トリアド、被買収企業リストに**

トリップアドバイザーの収入が、第 3 四半期 4.21 万ドル(前年同期比+1%)、第 4 四半期 3.16 億ドル(+2%)と 16 年第 3 四半期決算から増収に転じた。調整 EBITDA 利益では、第 3 四半期 1.14 億ドル(-12%)、第 4 四半期 0.58 億ドル(-33%)と依然として低迷している。問題の中心は、依然としてインスタント・ブッキングの統合とその拡大にある。しかし、最近のエクスペディアやヒルトンのインスタント・ブッキング参加により、この問題も改善の兆しが見えつつある。トリップアドバイザーは、インスタント・ブッキングをさらに根付かせるためにも、TV 広告に復帰するなどして収入拡大を最優先させると言っている。ウォール街のアナリストも、顧客にこの株式への投資を進めつつある。また一部のアナリストは、トリップアドバイザーが収支改善すれば、大きな投資力を有する企業の買収対象企業となるかもしれないと指摘している。トリップアドバイザーの時価総額はおよそ 75 億ドルである。買収企業としては、プライスライン、グーグル、アマゾンなどが噂されている。(TN 1/15 goo.gl/tTsDzY)

➤ **エアビーがハイエンド市場へ**

エアビーが、カナダのバケーションレンタルプラットフォームのラクジュリー・リトリーツを買収した。買収価格は公表されていないが、2 億ドルぐらいと言われている。ラクジュリー・リトリーツは世界 100 目的地に 4000 以上の施設の在庫を保有。エアビーは、最近のホテルのハイエンドのバケーションレンタル市場参入を追従している。アコーホテルのワンファインステイは、今週、都市郊外の豪華施設市場へ進出すると発表した。アコー自身も米ハイエンドビラ販売のトラベルキーを買収している。(TN 2/16 goo.gl/buxhTW)

➤ OAG、PE から PE に売却

リアルタイムの航空情報を提供する OAG が、プライベートエクイティ（PE）の Axio から、同じく PE の Vitruvian におよそ 2.15 億ドルで売却された。4 年前の Axio による OAG 買収は 1.6 億ユーロであった。OAG は、15 年 1 月に FlightView を買収している。Axio は、13 年から OAG の収支改善（毎年 30%増益）を成功させた。（TN 2/16 [goo.gl/PpQoZZ](http://goo.gl/PpQoZZ)）

+++++      +++++      +++++